

ふれあい
つながり
ささえあう

中京区地域福祉活動計画

第五次プラン

令和 7 (2025) 年度



令和 11 (2029) 年度

社会福祉法人
京都市中京区社会福祉協議会

社会福祉法人 京都市中京区社会福祉協議会
中京区地域福祉活動計画 第五次プラン

令和7(2025)年度～令和11(2029)年度

はじめに

近年、私たちが暮らす地域では、人口減少、少子高齢化、居住形態の変化、単身高齢者の増加を背景に、あらゆる分野で地域活動の担い手不足が大きな課題です。地域コミュニティの維持が困難な状況の中にあっても、複雑化・複合化する福祉課題に対して誰もが社会に参加でき、何らかの役割を果たすことができる、多様性を認め合う豊かな地域社会を福祉制度の枠を超えた様々な担い手との連携・協働により創り上げていくことが今求められています。

「中京区地域福祉活動計画」推進協議会・中京区地域福祉推進委員会の事務局として中京区社会福祉協議会では、その時代の地域福祉の課題を見据え、中京区の「ふくしのまちづくり」の方向性を示す「地域福祉活動計画」を平成15(2003)年から5年ごとに策定して参りました。このたび、「第五次プラン」(令和7(2025)年度～令和11(2029)年度)の策定にあたっては、「中京区地域福祉活動計画」推進協議会・中京区地域福祉推進委員会を中心に毎年、前プランの進捗状況を確認しあい、様々な取組によって浮かびあがってきた課題を明らかにしてきました。さらに、前プランの策定時と同様に中京区を東側地域と西側地域の2つに分かれて「まち×ふくし住民懇談会」を開催し、今の地域での活動の中で気になること(地域の福祉課題)と、これから求められる取組を話し合いました。このような経過で策定された「第五次プラン」の骨子には、中京区で暮らす人、活動する人「みんな」の声がたくさん散りばめられています。また、社協ワーカーによるアウトリーチから集められた情報から他の模範となりえる具体的な取組もいくつか掲載しています。中京に関わる「みんな」が声をかけ合い、手を取り合うことで、「みんな」の声に寄せられた思いを今後5年かけて、実現していきたいと思ひます。前プランで示した基本理念「みんなが ふれあい・つながり・ささえあう 中京のまち」のもと、みんなで「ふくしのまちづくり」を継承しさらに進めて参りたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

結びにあたり、「第五次プラン」の策定にあたってご尽力・ご協力いただきました関係者の皆様方に心よりお礼を申し上げますとともに、地域福祉の推進を目指して今後ともにご支援いただきますことをお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和7年3月

社会福祉法人京都市中京区社会福祉協議会 会長
「中京区地域福祉活動計画」推進協議会・中京区地域福祉推進委員会 委員長

村 上 繁 樹

はじめに	2
------	---

I. 中京区地域(福祉活動計画)の位置付け・方向性・目的

1. 中京区地域福祉活動計画とは	4
2. 計画の構成	4

コラム 「“包括的な支援体制”の構築と社会福祉協議会」	5
-----------------------------	---

II. 中京区地域福祉活動計画第五次プランの策定に向けて

1. 中京区地域福祉活動計画第四次プランの取組状況	6
2. まち×ふくし住民懇談会	8
3. 関連データ：まち×ふくし住民懇談会 統計資料「数字で見る中京」〔抜粋〕	10

III. 中京区地域福祉活動計画第五次プラン

1. 第五次プラン行動計画	12
2. 学区社協重点目標	14

おわりに	16
------	----

委員一覧 計画策定の経過等、関連事業等の動き	18
------------------------	----

コラム 区社協による参加支援の取組	19
-------------------	----

I. 中京区地域（福祉活動計画） の位置付け・方向性・目的

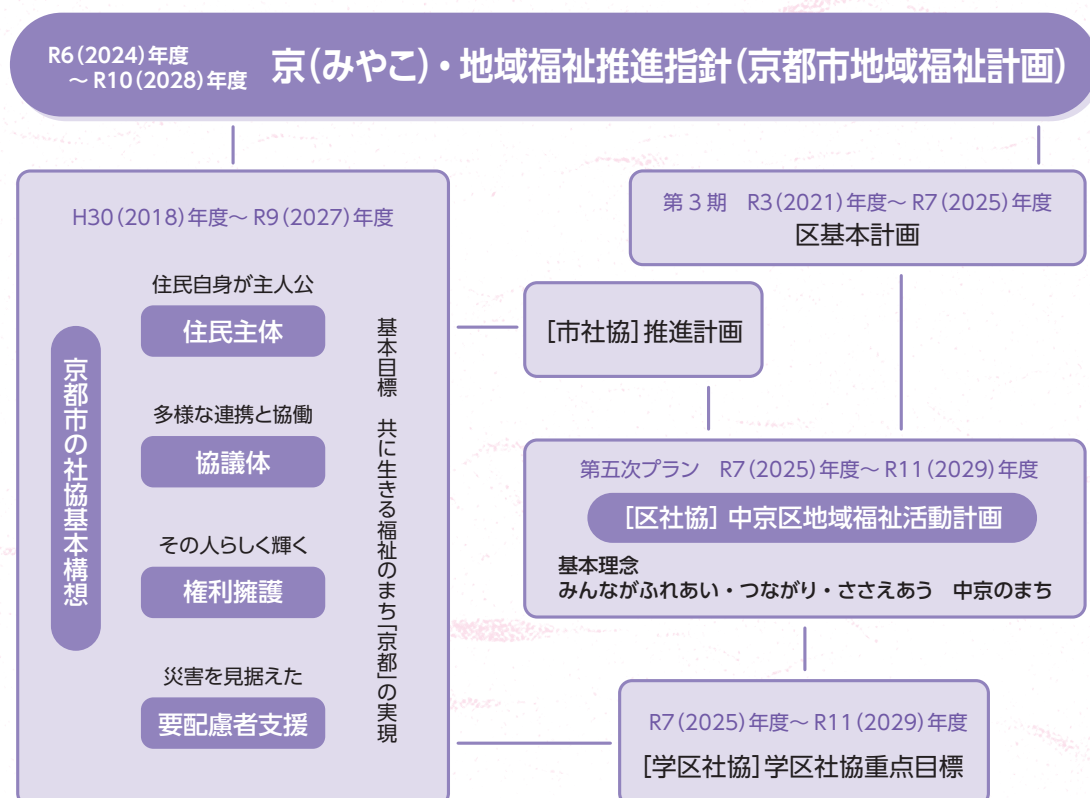
1. 中京区地域福祉活動計画とは

中京区地域福祉活動計画は、区・学区・町・マンション、向こう三軒両隣など、中京区の中で、住民、ボランティア・市民活動団体、福祉関係団体・施設、企業、商店街、行政などが、自発的に参加協力して行う「ふくしのまちづくり」を、中京区が持つ特性を踏まえながら今後どう進めるべきかの基本的な方向性を示したものです。

また、本計画は、2003年度の第一次プラン以降、5年ごとに策定され、その方向性は、京都市の地域福祉計画「京・地域福祉推進指針」、京都市社会福祉協議会の「京都市の社協基本構想」、中京区の23の学区社会福祉協議会による「学区社協重点目標」を踏まえて策定され、中京区の地域福祉の行動計画を定めました。

※ふくしのまちづくり…一人ひとりが尊重される地域づくり

2. 計画の構成



コラム

「“包括的な支援体制”の構築と社会福祉協議会」

○少子・高齢化と人口減少が進む中、一人暮らし世帯や生活スタイルの変化によって、地域社会では、互いに暮らしを支え合うかつての住民同士のつながりが希薄化し、それとともに孤独や孤立を背景に生きづらさを抱えた人の生活問題は潜在化し、より複雑化・複合化した福祉課題が、新型コロナウイルス感染症のまん延等による社会・経済情勢の混乱とあいまって益々深刻化しています。

○そのような状況にあって、地域活動の担い手の確保が課題となるとともに、社会問題となっている児童や障害者、高齢者への虐待や生活困窮、いわゆる「8050問題」や「ごみ屋敷」、「ひきこもり」や「ヤングケアラー」等の課題を抱え、支援が必要であるにもかかわらず、制度の狭間や支援の拒否等のために支援が届いていない人の課題解決に向けた「包括的な支援体制」の構築が急がれています。

○そのため、京都市は、令和6年度から5年間の「京（みやこ）・地域福祉推進指針」において、重点目標の1つ目に「地域における“気づき・つながり・支える”力の向上」に向けた推進項目として、住民同士が支え合う地域づくりと多様な機関・団体と住民との協働のしくみづくり、重点目標の2つ目には「行政・支援関係機関等による分野横断的な支援体制の強化」のための重層的支援体制の充実を図ることとしています。

○京都市の社協は、このように地域福祉の政策化が進む中で、身近な地域における住民主体の福祉活動に取り組んできた学区社協を基盤として、その活動を支援するとともに、ボランティア活動の振興や福祉関係者のネットワークづくり、相談支援と新たな活動の創出等に取り組む区社協、そして、区社協を支援し、市域の専門機関やサービスを運営する市社協の三層で、これまでも増して地域福祉の推進に寄与していくことが求められています。

○とりわけ、重層的支援体制の充実には、私たちが取り組んできた地域福祉活動が益々発展するとともに、行政や支援関係機関等が制度や分野の垣根を乗り越えて、互いに連携・協働することが不可欠であることから、京都市の社協には、その「総合力」と「ネットワーク」を存分に発揮し、人と人をつなぎ、協力関係を育むプラットフォームを構築するとともに、地域づくりや参加支援の促進における役割が期待されています。

○地域共生社会の実現のための「包括的な支援体制」の構築は、市民の福祉の向上に不可欠であることから、住民自身が主人公として地域を創る住民主体の理念のもと、多様な人や組織が連携・協働し、一人ひとりが尊重され、取り残されることなく、つながりをもって安心して暮らすことのできる「共に生きる福祉のまち“京都”の実現」をめざす京都市の社協として、積極的にその役割を果たして行く必要があります。

京都市社会福祉協議会 推進計画策定プロジェクト

II. 中京区地域福祉活動計画 第五次プランの策定に向けて

1. 中京区地域福祉活動計画第四次プランの取組状況

ふくしのまちづくり「みんなの願い」

基本理念

みんなが
ふれあい・つながり・ささえあう
中京のまち

基本目標

互いに認め合い、ふれあい、つながること、共に生きる「ふくしのまち」をつくります。

みんなの参加と協働を通じ、
お互いに支え合い、災害にも強い「ふくしのまちづくり」を進めます。

推進課題

推進活動

①

気づき・認め合う

推進活動

②

ふれあい・つどう

推進活動

③

見守り・助け合う

推進活動

④

頼り合い・支え合う

推進活動

⑤

学び育み・引き継ぐ

推進活動

⑥

つながり・取り組む

ふくしのまちづくり「みんなで進める取組」

主な取組と成果（令和2（2020）年度～令和6（2024）年度）

- 地域福祉活動では、コロナ禍で活動の内容も柔軟に変化するなど様々な工夫がみられた一方、各学区社協では重点目標を設定し、それぞれの地域特性に応じた地域福祉の取組が計画的にすすめられています。また、これら学区の取組は学区毎に発行される広報紙や区社協が発行する「べんがらごうし」等で広く発信してきました。
- 学区での地域福祉活動の支援に向けて、学区社協台帳の更新と活用・健康すこやか学級事業の推進の他、「京都市避難行動要支援者名簿の情報の提供等に関する条例」の制定により「京都市避難行動要支援者名簿」を活かした見守り活動の検討をすすめてきました。
- 複雑化・複合化した課題を抱える世帯が増加し、地域や人とのつながりが希薄になるなど誰もが孤独や孤立に陥りやすい状況にあります。そのような中、課題や不安を抱える当事者に寄り添った参加支援の取組を社協の総合力とネットワークを活かし多様な関係機関との連携ですすめてきました。また、様々な取組の告知や様子は SNS 等を活用し広く発信しています。



令和2年度	地域福祉活動の継続に向けて、感染症対応・見守り活動のガイドライン等を作成 コロナ禍で苦境する障害者事業所の取組事例を収集・発信
令和4年度	市社協とも連携した参加支援の取組の推進・発信 共同住宅における支え合い活動事例の収集
令和5年度	中京区こどもの居場所実行委員会による取組開始 「中京区の共同住宅で暮らす高齢者等を支える取組事例集」の発行
令和6年度	ゆっくりどうぞ会実行委員会による孤立・困窮者への取組開始 まち×ふくし住民懇談会を開催し、地域を取り巻く福祉活動の現状と課題の集約

2. まち×ふくし住民懇談会

第五次プランの策定にあたり、中京区の現状を知り現場の実態と照らし合わせながらこれからの地域福祉について話し合う「まち×ふくし住民懇談会」を開催しました。これによって、今の「地域で気になること」（課題）と、「これから求められる取組」を可視化することができました。

開催概要

○日時・会場

- ・堀川通東側地域：令和6年9月18日（水）午後6時30分～8時30分
ハートピア京都4階 第5会議室
- ・堀川通西側地域：令和6年9月26日（木）午後6時30分～8時30分
更生保護施設 盟親1階 講堂

○参加者

中京区の地域支援者、ボランティア・市民活動団体、支援機関、行政関係者等100名が参加。

○内容

- ・中京区地域福祉活動計画に掲げる基本理念と基本目標の振り返り
- ・統計資料から見えてくる中京区の特性を共有
東：花園大学 福富 昌城 教授
西：花園大学 深川 光耀 准教授
- ・ゲストスピーカーによる話題提供
東：高齢サポートによる学区地域ケア会議を経て、要配慮者と多様な機関や支援者らによる継続的な関わりの事例
西：中京区で広がりを見せる子どもと若者の居場所の現状と次代を担う若者からのメッセージ
- ・グループ懇談



グループ懇談で出た主な意見（抜粋）

〈地域の中で気になること・課題と感じていること〉

●人とのつながりが希薄化している

●制度の狭間や支援拒否、複合的な課題や困り・不安を抱えていると思われる人の増加

- ・自治会、町内活動の参加者が減っている
- ・自治会、町内会を脱退する世帯、入らない世帯が増えている
- ・マンションが増えたことで居住者とのつながりや接点が少なく出会えない
- ・マンションのオートロックで訪問活動が難しい
- ・一人暮らし高齢者が増えている（戸建てやマンションも含む）
- ・住民が安心して過ごせる居場所が少ない（高齢者だけでなく）
- ・7040や8050世帯の課題を抱える世帯では、特に40代、50代のつながれる居場所が少ない
- ・境界域（知的・発達）の子どもへの支援や親御さんとのつながれる居場所が少ない
- ・支援や関わりを拒否する人もいる中でどのように関わればいいのか不安
- ・対象者の顔が見えづらく、つながる手立てがない

●担い手・なり手の不足

- ・地域役員の高齢化がすすみ後継者やなり手が見つからない
- ・地域活動を一緒に手伝っていただける方が少ない

東西地域に共通する福祉課題

- ・地域とのつながりがない「見えない人の存在」
- ・すべての人に共通する「孤立」
- ・担い手・なり手の不足

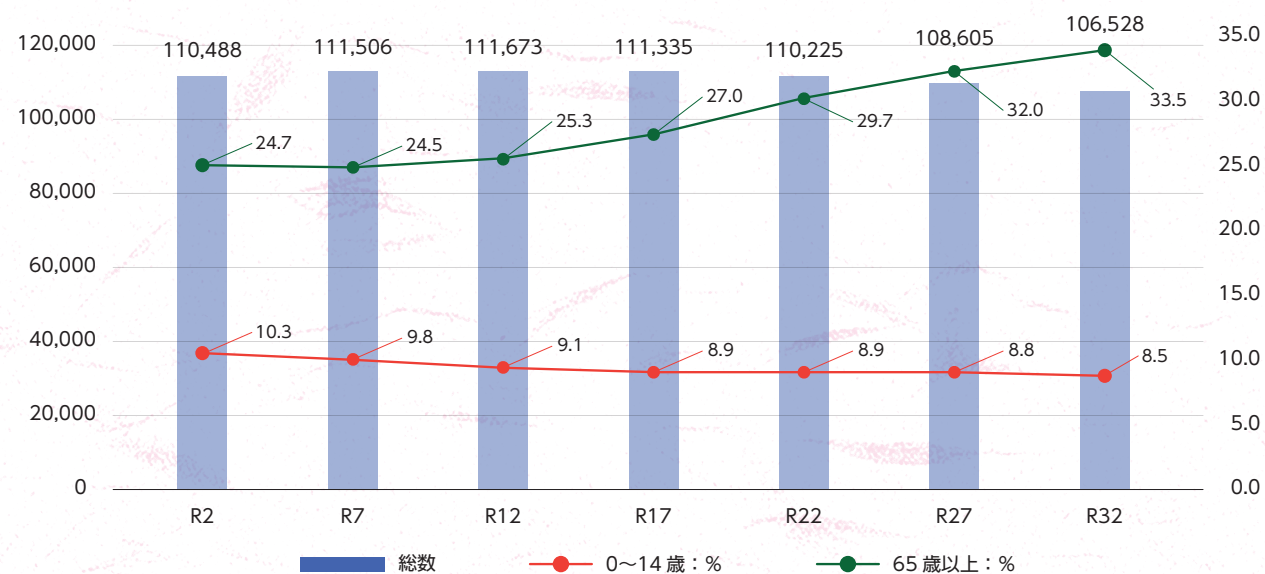


〈コーディネーターのまとめ〉

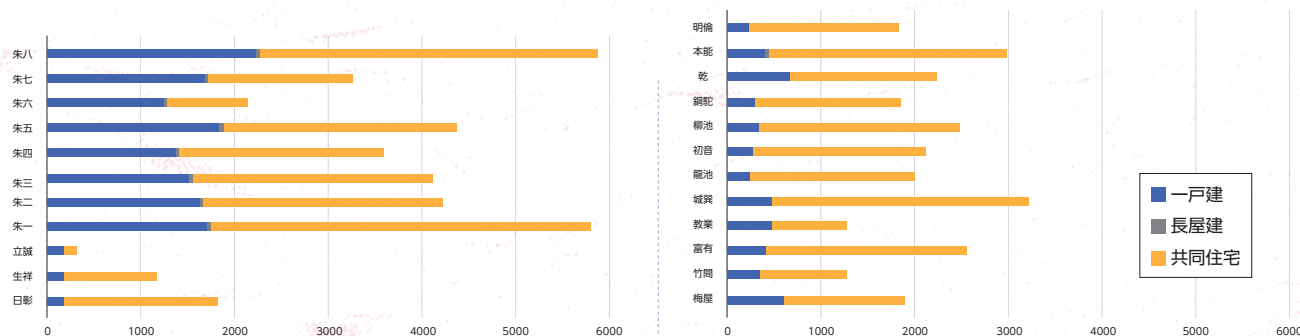
9月18日の東側地域の締めくくりは、花園大学社会福祉学部 福富昌城教授にお話をいただきました。福富先生は、この懇談会で明らかになったつながりに関しては、「つながりが欠けている人」、「つながりがなくなっている人」、「つながっていない人」といった方とどのようにつきあっていくか、今の時代におけるつながりをみんなで考えていくことが重要と話されました。そして、自分から動けない方、なかなかつながれない方とつながるきっかけをつくるために、これまでの取組から少し発想を変えてみたり、関われる人を増やしながらくつながられる居場所をみんなで創っていくことが重要だということを確認できたと、総括されました。

花園大学社会福祉学部 福 富 昌 城 教授

3. 関連データ：まち×ふくし住民懇談会 統計資料「数字で見る中京」〔抜粋〕

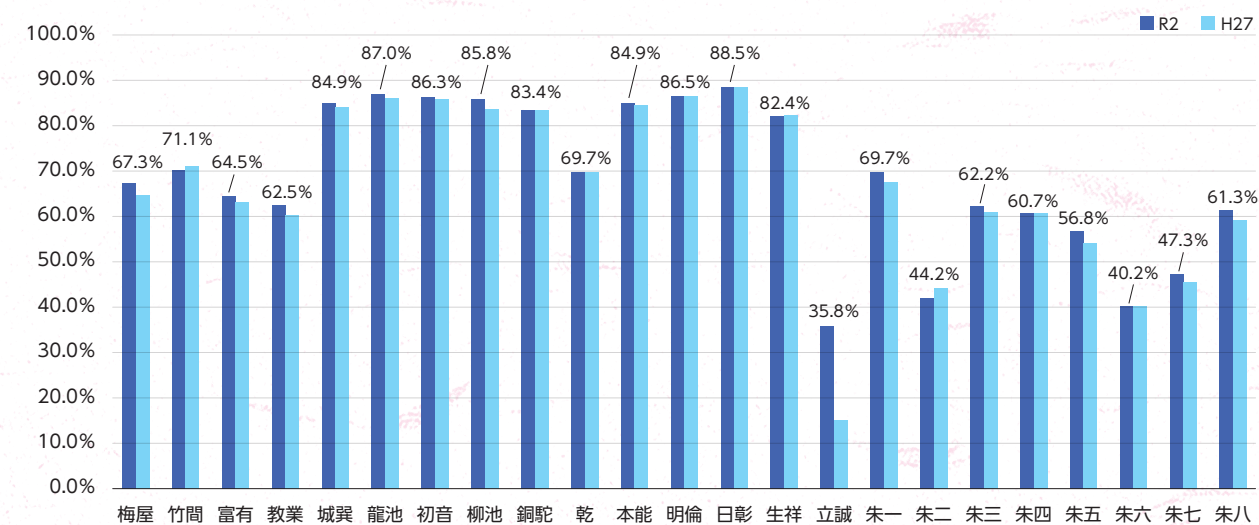


中京区の将来人口推移（人口及び年齢区分別）

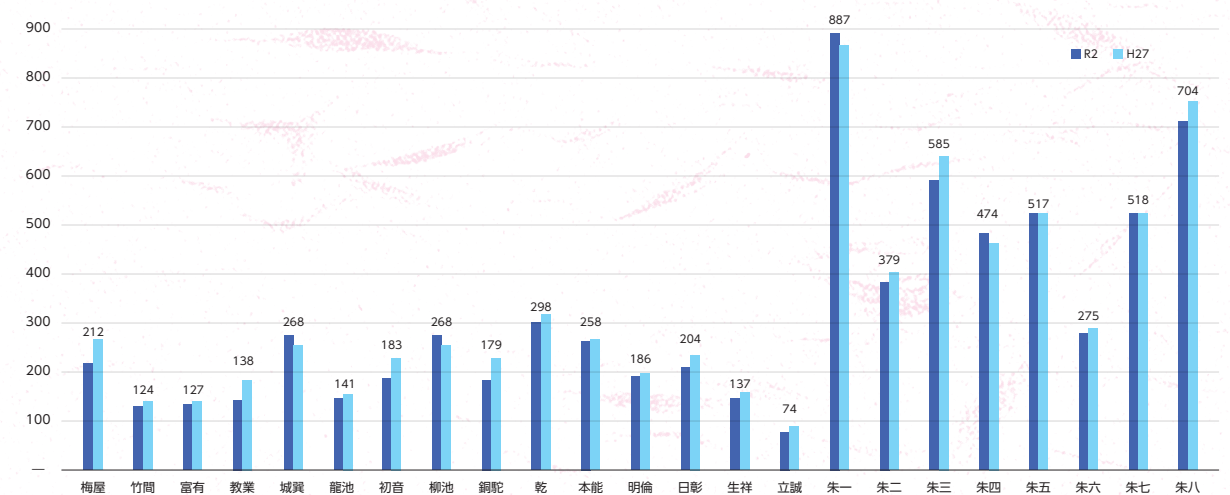


形態別住居の割合（学区単位）

令和2年国勢調査 第8-1 住宅の建て方別一般



共同住宅率の推移（学区単位）

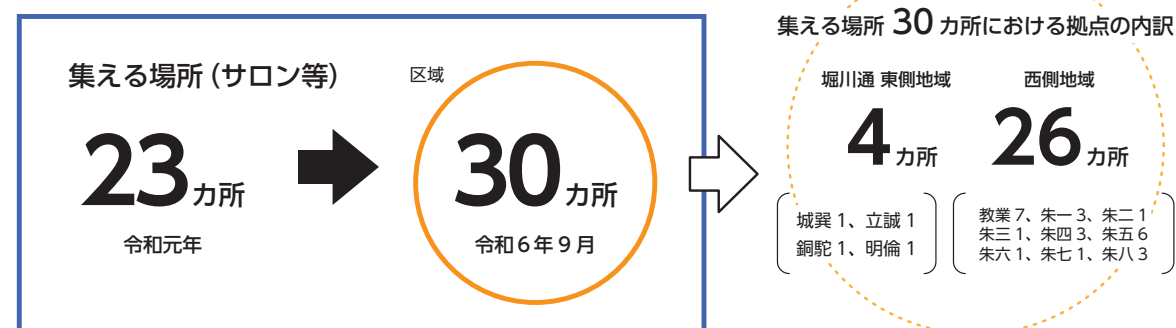


単独世帯高齢者（65歳以上）の世帯数（学区単位）

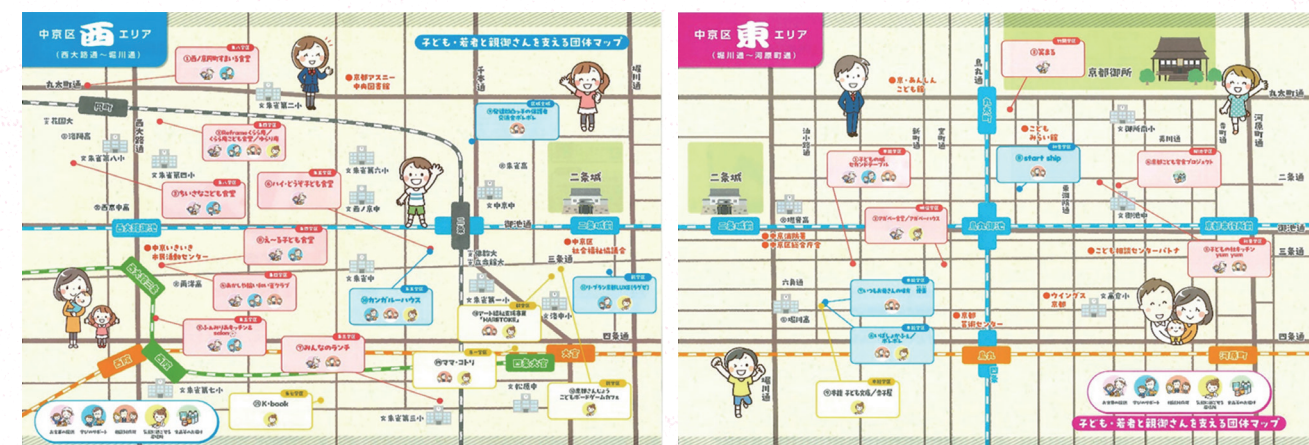
令和2年国勢調査 京都市独自集計結果（令和2年10月1日現在）
第4-5 世帯の家族類型（16区分）別一般世帯数

身近な地域で顔の見えるつながりづくりは広がってます

高齢者の居場所



出所 中京区地域支え合い活動創出コーディネーター



中京区で活動する子ども・若者と親御さんを支える団体情報
“ほっ”とできるいばしょ（中京区東エリア・西エリア） 令和6年発行



Ⅲ. 1. 中京区地域福祉活動計画 第五次プラン [期間：令和 7 (2025) 年度～令和 11 (2029) 年度]

ふくしのまちづくり
「みんなの願い」

ふくしの まちづくり 「みんなで進める取組」

基本理念

みんなが

ふれあい・

つながり・

ささえあう

中京のまち

行動計画 1 身近な地域の取組を通して出会いとつながりがつくれるよう声をかけていきます。

世代や障がいの有無、住まい方に関係なく、身近な地域でその人らしさが大切にされるつながりと居場所の取組を増やしつつ、誰もが気軽に関わられるようきっかけを創っていきます。

みんなで進める 具体的な 取組例

健康すこやか学級・きつずばあく・サロンなどの居場所づくり、お盆行事や盆踊りなど伝統文化・季節に応じた出会いの場づくり、防災や福祉教育などの取組。周知の工夫ではマンション内の掲示板の活用や個別案内の配布など

行動計画 2 多様な活動団体・人同士 がつながり、一緒に取組をすすめます。

困りや不安を抱える人や世帯を見過ごさないよう気づき・見守りと声かけの輪を広げ、困ったときに声がだせる・声がかけあえるなど人同士がつながりあえる取組をすすめます。

みんなで進める 具体的な 取組例

区社協がおこなっている参加支援の取組(区社協カフェ、教養ガーデン、なんでもてんらんかい)、ボランティアグループや市民活動団体、施設・企業との連携による取組(ゆっくりどうぞ会、いばしょクリスマス会、であいひろば、ボランティアフェスティバル)、学区を越えた連携(合同きつずばあくの開催など)

行動計画 3 困りや不安を抱える人に 寄り添い、支え合える地域づくりをすすめます。

困りや不安を抱えながらも本当は支援が必要であるにもかかわらず支援が届いていない人や支援が届きにくい人に対して寄り添いながら、支え合える地域づくりをすすめます。

みんなで進める 具体的な 取組例

これまでからすすめてきた身近な地域における住民主体の取組やネットワークでの取組、相談や支援・新たな活動の創出など地域や行政・支援関係機関等と制度や分野の垣根を越えた連携



Ⅲ. 2. 学区社協重点目標

基本理念「みんなが ふれあい・つながり・ささえあう 中京のまち」の実現に向けてたてた3つの行動計画を学区単位でどのようにすすめていくかを各学区社協で話し合い、これからの5年間で重点において取り組む目標「学区社協重点目標」を設定しました。

梅 屋

社会福祉役員が楽しんで活動するとともにサロン・見守り 75 など活動の中で声掛けをし地域の困りごとに気づき支援につなぐことを目指す

竹 間

新しい仲間を集め、地域の誰もが気軽に声かけ合い自由に参加し、アットホームなつながりが出来る場作りを目指します。

富 有

子育てに奮闘する親御さんも安心して過ごせる居場所づくりと、年を重ねてもみんなが笑顔で集える居場所づくりを関係団体と一緒にすすめていきます。

教 業

声かけ合ってサロンに参加していただくとともに、防災への意識を高める活動の取組みを社協事業として行っていきます。

城 巽

世代交流の場を通して地域の人材・担い手と共に地域共生充実の社協活動を推進します。

龍 池

訪問事業とサロンを連続性のある事業とし、新たな参加者となつながらきっかけ作りをおこなうとともに、サロンをはじめとする事業の参加者が楽しい時間を過ごせる場をつくっていきます。

初 音

サロン活動を中心に幅広い世代の方とつながり、ほっとできる場をつくります。

柳 池

顔の見える関係を広げ、サロン参加者の増加や、新たな役員・担い手育成につなげます。

銅 駝

現状の取組みを継続し、未参加の方への働きかけを行い、新しい参加者を受け入れることで学区のつながりを強めていきます。

乾

顔の見える取組を通して、お互いが寄り添い支え合える関係を深め、笑顔とぬくもりのあふれる地域づくりをめざす

本 能

「ふ・く・し」を合言葉に、これまで本能学区社協とつながりがなかった人への働きかけをより強化し、お年寄りや親子、身体の弱い方を見守るご近所付き合いの輪を広げ、本能を誰にとっても居心地のいい居場所にしてい

明 倫

安全安心まちづくり ～みんなの幸せを求めて～・住んでみてよかったと思えるまちづくり・これからも住み続けたいと思えるまちづくり・誰もが住みたいまちづくり

日 彰

社協活動（すこやか、体操、レインボーカフェなど）を通じて、広く発信し、新規参加者を増やして顔つながりを作り、情報交換する

生 祥

サロンや筋トレなど、これまでの事業を継続・充実させていきます。そして地域の皆様とより強く繋がり、思いやりの心を次世代に継がせていきます。

立 誠

災害時の助け合いにつながるように、老人クラブや女性会など地域の諸団体と連携しひとりでも多くの方に取組に参加してもらい、顔の見える関係をつくっていきます。

朱 一

住民が主体となり災害時の助け合いにつながる各種事業に取組み、安全・安心に暮らせる街朱一を目指す

朱 二

健康すこやか学級や見守り活動を通し住民同士の支え合い活動を地域に根ざし暮らしの安心につながるよう社協の事業の充実を計る

朱 三

子どもからお年寄まであらゆる世代の課題に取り組めます。

朱 四

町委員に協力・参加してもらい、学区社協事業の参加者を住民同士の口コミでふやし、障がいのある方にも情報が届くことを目指します。

朱 五

参加者が元気に楽しみ参加できるサロンづくりを行い、参加者の見守りに努めるとともに新しいボランティアが参加できる機会をつくります。

朱 六

次代を担う指導者の発掘と担い手の確保と育成

朱 七

全ての世代に福祉の充実を！

朱 八

「ふれあい」「支え合う」活動を通して、誰もが安心・安全に暮らせる朱八学区を目指して！！

期間：令和 7（2025）年度～令和 11（2029）年度

おわりに

統計資料から見てくる中京区の状況と、「まち×ふくし住民懇談会」から見てきた地域の福祉課題

「少子高齢化」「核家族化」「人口減少社会」「コミュニティの希薄化」「担い手不足」等。これらのキーワードは、これまでからも地域福祉の課題といわれていたものであり、現時点でも私たちが暮らす中京区の福祉課題の一つといえます。

中京区地域福祉活動計画第五次プランの策定をすすめる中で、まず、統計資料から中京区の状況を見てみると、中京区の人口は今後も微増もしくは横這いが続きますが、少子高齢化はすすむと推測できます。また、近年はマンション建設による人口の流入が目立ち、多くの学区でマンション等の共同住宅率が高くなっています。これらは、形態別住居の割合を学区ごとで見ると、ほぼすべての学区で共同住宅の割合が多いことがわかります。さらに、学区ごとで世帯の家族類型を見てみると、単身世帯が増加していて、その中でも65歳以上の単身世帯も増加傾向にあることがわかります。

さらに、実際に各学区（地域）で活動される支援者を交えた「まち×ふくし住民懇談会」のグループワークでは、今、地域で気になること・課題と感ずることについて参加された方から「マンション・集合住宅の増加」「お一人暮らし高齢者の増加」「人とのつながりや接点が少ない」等の意見が多くだされていました。

このように中京区の現状を知り現場の実態と照らし合わせる中で明らかになったことは、東西地域に共通する課題としては、地域とのつながりがない見えない人の存在が一定数あることと、その全ての人に共通するのは「孤立」というワードです。その問題課題を乗り越えていくためには、場づくりが求められてはいることは理解できますが、その担い手・なり手が不足している現状が見えてきました。そのような中で、これからの福祉活動をすすめる上でのキーワードは、「つながりが欠けている人」「つながりがなくなっている人」「つながっていない人」といった人たちとどのように付き合っていくか、今の時代におけるつながりをみんなで話しあいながら、考えながら、創っていく必要があることが見えてきました。

第五次プランが目指すもの

中京区地域福祉活動計画の基本理念は、第四次プランに引き続き、ふくしのまちづくりにつなげるみんなの願いを「みんなが ふれあい・つながり・ささえあう 中京のまち」を掲げます。第五次プランはそこに3つの行動計画が重なり合うよう設定しました。第四次プランでは2つの基本目標と6つの推進活動を設定していました。しかし、コロナ禍による未曾有の緊急事態で計画通りにはいかず、計画そのものよりもこれまでからす

すめてきた様々な取組の中断・中止を余儀なくされ、人と出会うことすらできないあの苦しい期間を、なんとか身近な地域でつながりを絶やすまいと、知恵や工夫、努力を積み重ね乗り越えてきた各学区（地域）の底力に大変驚かされました。既に区域や学区域にはみんなですすめられている取組がたくさん芽生えています。それらの取組を参考にしながら広げていくことが、先に掲げる基本理念に近づいていくものと考えます。

また、この第五次プランは、中京区で地域福祉活動に関わる方向けの計画と位置づけ、基本理念に重なる行動計画の一つ目は、住民にとって身近な地域（学区）での取組のスローガン「身近な地域の取組を通して出会いとつながりがつくれるよう声をかけていきます」。二つ目は、担い手やなり手が不足する中で、地域（学区）だけではできないけれども、他の人や団体、施設あるいは企業や商店、ホテル等と連携しながら一緒にすすめていくスローガン。三つ目は、区域や学区域での様々な全ての取組は、結果として国が目指そうとしている地域共生社会の実現につながっています。国が目指す社会の実現に向けて近年では市町村でも制度施策を打ち出されています。私たちが暮らす京都市においても、重層的支援体制整備事業が創設され、分野を横断した「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」が一体的にすすめられようとしています。私たちがこれまでからすすめてきた身近な地域における住民主体の取組やネットワーク、居場所づくりやつながりの取組を行政機関や支援機関等と連携・協働させていくことが、困りや不安を抱える人に寄り添い、支え合える地域づくりにつながることから三つ目のスローガンを立てました。

先に述べた「まち×ふくし住民懇談会」のグループワークの中で、これから求められると思われる取組について、参加された方から「身近な地域で顔の見える関係づくり・つながりづくりが必要だね」「誰でも参加できるや関われる居場所がもっとあればいいよね」等の意見が多くだされていました。ここから皆さんが、こういうことがさらに必要となっている、これらの取組には色々な人に来てもらいたい、色々な人にそこで活動・活躍してほしいという想いをお持ちであることがわかりました。

こうした取組や活動は既にできているところもあるので、それをもっと「増やしていきましょう」というのが第五次プランの原点となります。令和7年度を新たなスタートに、みなさんの働きかけが「みんなが ふれあい・つながり・ささえあう 中京のまち」の実現につながっていくことを期待します。

花園大学社会福祉学部社会福祉学科 教授
「中京区地域福祉活動計画」推進協議会・中京区地域福祉推進委員会 副委員長

福 富 昌 城

「中京区地域福祉活動計画」推進協議会 委員一覧

【任期 令和5年10月～令和7年6月】 ※「中京区地域福祉推進委員会」を兼ねる ※役職は任期当時のもの（敬称略）

区 分	氏 名	役 職	備 考
区社協	村上 繁樹	中京区社会福祉協議会会長	◎委員長
学区社協	乾 亨	本能学区社会福祉協議会会長	
	金 永勲	朱三学区社会福祉協議会会長	
ボランティアグループ	松岡 幸子	認定NPO法人アンビシャス理事長	
当事者組織	菅浪 善造	中京区身体障害者団体連合会会長	
民生児童委員会	鵜飼 泉	中京区民生児童委員会会長	
地域団体	奥村ゆかり	中京区地域女性会会長	
	宮崎 茂	NPO法人あかしやふれあいネットワーク専務理事	
	櫻井 陽子	京都市聴覚言語障害センター所長	
施設関係	内海日出子	中京区保育園長会会長	
	福井 信男	京都市朱雀地域包括支援センターセンター長	
教育機関	野口十三枝	京都市立小学校長会中京支部支部長	
行政関係	中山 英之	中京区役所保健福祉センター健康福祉部長	
	荒木 祐子	中京区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室長	
学識研究者	福富 昌城	花園大学社会福祉学部教授	○副委員長

「中京区地域福祉活動計画」推進協議会 開催経過

回	開催日	内 容
1	令和6年 6月18日	中京区地域福祉活動計画第四次プランの進捗確認について
2	令和6年12月18日	中京区地域福祉活動計画第五次プラン素案について
3	令和7年 2月14日	福祉のまちづくりを考える区民集会にて中京区地域福祉活動計画第五次プラン行動計画の提案

その他関連事業等の動き

年 月	内 容
令和5年12月17日	第1回「いばしょクリスマス会」の開催
令和6年 6月 5日	学区社協会長会議の開催
令和6年 6月～	学区社協重点活動プランの作成（～11月）
令和6年 7月18日	ボランティアセンター運営委員会の開催
令和6年 7月24日	事業財務健全化委員会の開催
令和6年 7月19日	第1回「どうぞ会」の開催
令和6年 9月18日	まち×ふくし住民懇談会（中京区東側地域）の開催
令和6年 9月26日	まち×ふくし住民懇談会（中京区西側地域）の開催
令和6年10月	「中京区で活動する子ども・若者と親御さんを支える団体情報2024夏号“ほっ”とできるいばしょ」（中京区東エリア・西エリア）の発行
令和6年11月 4日	第2回「ゆっくりどうぞ会」の開催
令和6年12月	「中京区で活動する子ども・若者と親御さんを支える団体情報2024冬号“ほっ”とできるいばしょ」の発行
令和6年12月 8日	第2回「いばしょクリスマス会」の開催
令和7年 2月14日	福祉のまちづくりを考える区民集会の開催
令和7年 2月17日	学区社協会長会議の開催
令和7年 2月24日	第3回「ゆっくりどうぞ会」の開催
令和7年 3月13日	理事会の開催
令和7年 3月21日	評議員会の開催

事務局（中京区社協） ※2025（令和7）年3月末時点

氏 名	役 職
數田 浩司	事務局長
大西 一雄	事務局次長 統括地域福祉コーディネーター
青松 香里	地域支え合い活動創出コーディネーター
植野 春菜	地域福祉コーディネーター
奥田 美森	地域あんしん支援員事業担当

発 行／2025（令和7）年4月 発行責任者／社会福祉法人 京都市中京区社会福祉協議会

コラム

区社協による参加支援の取組

「区社協カフェ」「教養ガーデン」「いばしょクリスマス会」「であいひろば」…中京区社協では、さまざまな居場所や取組をしています。これらは、社協事業利用者への支援での気づきや地域の声をきっかけに生まれ、地域の皆さんと一緒に作っています。

例えば、令和6年度に開催した「なんでもてらんかい」。個別支援担当が「利用者の好きなものや興味関心があることなら、支援者以外ともつながれるのでは？」と思ったことがきっかけです。「誰でも何でも出展OK」とすると、地域の担い手や子どもの居場所、社協の個別支援事業の利用者など、たくさんの人から応募がありました。そして、お互いの好きなものを通してさまざまな人が交流し、自然と「イイね！」を伝え合う空間ができていきました。個別支援では、利用者の生活に寄り添う中で好きなことや強みに気づく一方で、利用者と支援者1対1の関わりの中だけでは、利用者が自分の強みや潜在的な思いに気づくことが難しい場合も少なくありません。「なんでもてらんかい」を通じた多くの人との関わりは、利用者本人が自分の良いところに気づいたり、ありのままの自分でいられる場所があると感じたりするきっかけになったと思います。

他には、孤立しがちな人とゆるやかにつながることを目的にした「ゆっくりどうぞ会」。相談や支援につながりにくい人とつながるきっかけを、地域の居場所や支援機関と模索する中で生まれた居場所です。生活支援物資の配布とカフェを同時開催しながら、そこに来た人がなんとなく知り合える工夫をみんなで考えています。まだまだ試行錯誤しているところですが、以前から地域で見かけていた少し気になる人が、ゆっくりどうぞ会をきっかけに他の居場所にもつながるなどの広がりも見られるようになっています。

冒頭にも述べたように、こうした居場所や取組は地域のいろいろな人とみんなで作っています。そして、参加した人それぞれに、人や場所、自分自身を知る、目標ができるなどのつながりが生まれてきています。こうしたつながりを広げていけるよう、いろいろ参加の形や切り口を、今後も地域の皆さんと一緒に考えながら取り組んでいけたらと思います。



社会福祉法人
京都市中京区社会福祉協議会

〒604-8316
京都市中京区大宮通御池下る三坊大宮町 121-2
TEL 075-822-1011 FAX 075-822-1829
<https://nakagyo-syakyo-kyoto.jp/>



赤い羽根共同募金 本紙は共同募金の配分金を使わせていただいております。

